

平成 27 年 8 月 5 日

## 臨床研究に関する情報

山形大学医学部附属病院で放射線治療をお受けになった患者さんへ

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた記録をまとめることによって行います。このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

[研究課題名] 膀胱小細胞癌に対する機能温存を目的とした放射線治療の検討

[研究機関] 山形大学医学部附属病院 放射線治療科

[研究責任者] 根本 建二（放射線治療科）

[研究の目的]

膀胱小細胞癌は膀胱悪性腫瘍の 0.3～1%を占め、人口 10 万人あたり 0.05～0.14 症例（0.3～0.6%）にみられる稀な疾患で、疾患頻度の低さから、適切な治療方針や臨床上の性質に関する大規模な前向き研究はありません。最近では化学放射線治療の有効性が報告されているものの、多くは膀胱全摘術などの外科的治療が行われています。特に膀胱全摘術、腎瘻造設された場合には患者の負担も大きいため、膀胱温存可能な放射線治療は患者さんの生活の質（QOL）を維持する点で有意義と考えられます。

これまで、2007 年 2 月から 2011 年 8 月までに当院および関連施設にて局所療法として放射線治療を受けた 6 症例の調査では 3 年局所制御率が 80%であり、標準治療となる可能性があります。本研究では本邦で放射線治療を受けた症例を対象に放射線治療の意義について後ろ向き検討を行い、今後化学放射線治療を標準治療として確立することを目的としています。本研究は日本放射線腫瘍学研究機構（Japanese Radiation Oncology Study Group: JROSG）の泌尿器腫瘍グループの調査研究として行われ、山形大学は本研究の代表研究者として研究に参加しています。

[研究の対象]

山形大学医学部附属病院で1990年～2010年の間に病理学的に小細胞癌(WHO分類)と診断され、放射線治療が実施された患者さんを対象といたします。

利用する情報カルテ情報は、年齢、性別、病気、その進展程度、行われた放射線治療とその効果、併用された治療、副作用、予後に関する情報となります。

[個人情報の取り扱い]

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接特定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌などで発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

[問い合わせ先]

〒990-9585 山形市飯田西2丁目2番2号  
山形大学医学部放射線腫瘍学講座 根本建二  
TEL 023-628-5386 FAX 023-628-5389